



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVET THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

広がる支援の輪



中国の状況がいかに深刻かを知った日本は、「全国総動員」と言って良いほどの支援に乗り出した。大量のマスクを多くの日本企業が現地に発送。日本人を帰国させるために武漢に飛んだチャーター機も「手ぶら」では向かわず、たくさんの医療物資を積み込んで現地に赴いた。中国にある日本大使館は SNS 上で支援物資の詳細なリストを公表している。そして日本各地に続々と出現した「中国加油（中国頑張れ）」「武漢加油（武漢頑張れ）」のメッセージは中国のネットユーザーによって瞬く間に拡散され、中国社会全体の注目を集めた。

こうした措置は庶民の心に響き、ネットユーザーらは「日本に恩返しをしよう」などと反応。日本国内で感染拡大が続く中、中国駐日本大使館は 20 日、新型コロナウイルス検査キットを日本に無償提供したことを明らかにした。

彼らは日本の文化や日本人と実際に触れ合うことで、日本のことをより具体的に知るようになった。民間レベルで日本に対する理解が深まり、『知日』から『親日』になる人が増えた」として、「今回の日本の支援を見て、素直に感謝の気持ちがわいてきた中国人がほとんどだと思う」。



名古屋駅前でマスクを配る中国人、2/22



歌舞伎町で日本人にマスクを配る中国人女性。中国版の twitter で関心を集めた。2/20

連日、コロナウイルスのニュースを聞いていると不安になる一方ですが、大変な状況のときこそ支え合いの姿勢が大事なのだと痛感します。中国人たちが日本でマスクを配るこの背景には、なにがあるのでしょうか。それは、日本に対する愛情、日本人の友人や家族を心配する気持ち、人と人との関わりのなかで生まれた絆が行動力の源になっているのではないかと思います。

このような支援は、あまりニュースで大きく取り上げられることは少ないですが、みなさんにぜひ知ってほしいと思いました。相手に対して否定的な意見をもつだけでは、何も変わらない。自国だけではなく、この苦境を乗り越えるためにはお互いの国同士の支え合いなのではないでしょうか。みなさんはどう思いますか。(高田)